

第9期（2025年度）事業計画書

（2025年8月1日から2026年7月31日まで）

定款第4条に定める事業の充実を図り、財団の管理運営を遺漏なく行い、本財団に対する支援者・関係者の一層の理解を深めるため次のとおり各事業を実施する。

1. 生物学及び周辺分野における基礎研究の助成事業【予算 83,516 千円】

基礎科学（一般）及び 基礎科学（酵母）研究の助成

世界に先駆けて生物学及び周辺の新分野を拓き得る先見性・独創性に優れた基礎研究、国や公的機関による助成がなされにくい基礎研究、及び任期切れ・定年等により継続が困難となる基礎研究に対して、基礎科学（一般）として研究助成を行う。

尚、第9期より基礎科学(一般)は、1,000万円を上限とするA枠、300万円を上限とするB枠に分けて、合わせて6～10件採択する。

また、日本における酵母研究は国際的にも高く評価されてきたが、研究の拠点が急速に、全国規模で失われつつあり、酵母研究の底上げの必要性が極めて高い現状に鑑み、酵母の生理現象を対象とした基礎生物学的研究に対して、基礎科学（酵母）として研究助成を行う。

助成金については、助成金の柔軟かつ効果的な執行を促進するため、これまで年度ごとに支給していた2年分の助成金を、第1年度に一括して交付する方式へと変更する。

この変更により、第9期は基礎科学（一般）では1,700万円の増額で総額65,000千円、基礎科学（酵母）では500万円の増額で総額17,000千円の研究助成を行う。

研究助成の選考審査費用として1,416千円、諸経費等として100千円を計上する。

以上により、本基礎研究の助成事業として合計83,516千円を計上する。

[予算 83,516 千円]

2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業【予算 28,998 千円】

(1) 創発セミナー（企業経営者・研究者、大学等研究者との勉強会・交流会）

基礎科学の先端的研究者と企業の第一線の研究開発者が一堂に会し議論する中で気づきを得ることを目指し、年10回開催する（下表参照）。対面開催3回（第4、6、8回）、オンライン開催7回を予定する。対面開催で行う場合、セミナー開催にかかる費用に充てるために、理事長が承認した参加費（招待者を除く）を徴収するものとする。セミナー開催時に交流会を開催する場合、参加者からは5,000円程度の実費を徴収する。オンラインセミナーは参加無料とする。

回	時期	内容
1	2025/9	創発セミナー
2	2025/10	創発セミナー
3	2025/11	酵母コンソーシアム：酵母を材料とする一般生物学研究
4	2025/12	講演会及び研究助成贈呈式（対面とオンライン）
5	2026/2	創発セミナー
6	2026/3	アドバイザー会議：財団のアドバイザーと財団の研究者等で、財団の活動及び大学と企業のより有効な関係構築等について議論を行う。（対面）

7	2026/4	創発セミナー
8	2026/5	酵母コンソーシアム（対面）
9	2026/6	創発セミナー
10	2026/7	創発セミナー

講師謝金、旅費交通費、セミナー開催費、会議費、通信費、消費税等として、2,678 千円を計上する。

[予算 2,678 千円]

(2) 市民講座の開催（市民及び学生を対象とした基礎科学の普及啓発活動）

市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化の醸成及び地域社会への貢献に資するため、年 1 回、「市民のための基礎科学講座」を開催する。来期は 2025 年 8 月後半にウェビナーにて開催する。また、財団の研究者会員を中心として、少人数の一般参加者を集め、科学を身近に楽しめるように、年 4 回程度、「サイエンスカフェ」を各地方において開催する。講師謝金、旅費、会場費、消耗品費、通信費等として、502 千円を計上する。

[予算 502 千円]

(3) 「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い」の開催

次世代を担う小中高生に将来基礎研究者として活躍して欲しいという願いを込めて「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い」を年 2 回開催する。2026 年 3 月 22 日（日）に愛知県で開催し、第一線の研究者による講演のほか、大学や企業の協力を得て、主に小、中学生が実験や観察を体験できる科学体験ブースを企画する。また、科学好きの中学生及び高校生と研究者との交流を深めるための会を「未来の科学者サロン」と称して別途企画する。講師謝金、体験ブースに協力する学生アルバイト謝金、会場費、旅費交通費、消耗品費、通信費等として、710 千円を計上する。

[予算 710 千円]

(4) 微生物機能探究コンソーシアム（略称、微生物コンソーシアム）

本コンソーシアムは、アカデミアと企業が協力して微生物学の振興をはかることを目的として活動する。

アカデミア及び企業からの委員で構成される運営委員会において、運営方針、活動計画・予算、及び活動報告・決算報告の審議・承認を行い、直近の理事会に上申する。活動の中心となるバーチャル研究所では、4 つの研究グループごとに定例会を開催して議論を進める。定例会はグループごとのオンライン開催を基本とするが、各グループが開催する定例会年 6 回のうち、対面開催を 2 回行うものとする。また 4 グループ全体で議論する全体会を年 3 回対面で開催する。他にグループを超えた活動として、微生物研究者のつながり強化を目的に地方で 2 回のシンポジウムを開催する。

この活動には微生物コンソーシアム参加企業からの年会費及び企業からの使途指定寄付金を充てることとし、講師謝金、旅費交通費、会場費等の会議開催費として 4,060 千円、研究委託費として 12,400 千円、人件費として 4,000 千円、年会費に係る消費税（簡易課税）1,270 千円、雑費として 100 千円、計 21,830 千円を計上する。

また微生物コンソーシアムの活動のひとつとして展開されるプラスミド DB 構築については、企業の使途指定寄附金を充てることとし、研究委託費 2,850 千円を計上する。

以上により、本コンソーシアム事業として合計 24,680 千円を計上する。

本事業については今後の財源確保に向けて、新たな会費・寄付の募集方法について検討を行う。

[予算 24,680 千円]

(5) 企業の課題解決に向けた相談対応

企業から課題に関する相談があった場合に助言、研究者の紹介等をする活動を、収益事業として実施する。年間 1 件 (55 万円の収益) を見込み、協力研究者への謝金、旅費交通費、法人税、消費税等として、428 千円を計上する。

[予算 428 千円]

(6) 基礎科学の普及のための書籍、教科書等の発行

書籍発行に向けた企画、資料の収集等、準備を行う。今期の予算計上はなし。

[予算 0 千円]

3. 事業推進 【予算 11,946 千円】

前記 1 及び 2 の事業を適切に運営するための事業推進費を設ける。

前年度に引き続き、ニュースレターの発行による財団の事業紹介、財団 X (旧 Twitter) で財団のイベントなどについて投稿し、財団の情報開示を積極的に行う。三井住友銀行、READYFOR 株式会社と提携し、遺贈寄付受入れ体制を強化する。また郵便振込書付財団案内書を配布することで、更なる寄付金、会員募集に努める。

来期は財団設立 10 周年を迎えるにあたり、次の 10 年を見据えた体制の構築を進めるべく、新たな施策を開始する。

まず、若年層や一般の方を対象とした YouTube 公式チャンネルを開設し、基礎科学に関する啓発的なコンテンツの配信を通じて、科学的理解の促進および財団活動への認知向上を図る広報事業を開始する。動画コンテンツの制作・編集等にかかる費用について支払手数料などを含み 3,000 千円を計上する。当該費用については、動画内に寄付ページへの誘導を組み込むことにより、寄付促進と連動させ、財団の負担を軽減するものとする。

また、新たな資金調達手法として、クラウドファンディング型の取り組みを導入する。

本施策では、財団の研究助成や基礎科学発展のための活動をテーマとし、広く共感を得られるような構成とした上で、クラウドファンディング・プラットフォームに掲載し、多様な層からの寄付を募る。

さらに、10 周年記念事業に向け企画・準備の体制を確立する。

他に、公益事業を推進するために必要な人件費、地代家賃、旅費交通費、諸経費等として 8,946 千円を見込み、新たな施策のための費用も合わせ、合計 11,946 千円を計上する。

4. 管理業務 【予算 11,709 千円】

財団運営に係わる管理業務として、理事会、監事監査、評議員会を開催するとともに、行政庁への届出等対応業務やその他の諸業務を適切に行う。

以上